

コース名	科目名			対象学年
個体の反応 病因と病態	薬物治療			2
開講学期	科目責任者	副責任者		全体資料
3学期	岡本 安雄	楠 裕明		有

授業到達目標

1. 自律神経作用薬（アドレナリン作用薬、抗アドレナリン作用薬、コリン作用薬、抗コリン作用薬）について、薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
2. 中枢神経作用薬（向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン病薬、抗てんかん薬、全身麻酔薬など）について、薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
3. 薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性、嗜癖を説明できる。
4. 循環器作用薬（強心薬、抗不整脈薬、降圧薬など）、血液・造血器作用薬の薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
5. 呼吸器作用薬（喘息治療薬、鎮咳薬など）について、薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
6. 消化器作用薬（潰瘍治療薬、消化管運動作用薬など）について、薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
7. 代謝治療薬、利尿薬について、薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
8. ステロイド薬および非ステロイド性抗炎症薬の薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
9. 抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬などについて、薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
10. 抗悪性腫瘍薬について、薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。
11. 生物製剤の薬理作用と副作用を説明できる。
12. 和漢薬（漢方薬）の特徴や使用の現状について概説できる。
13. 処方箋の書き方、服薬の基本・コンプライアンスを説明できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	1/ 6	月	4	講義	岡本安	薬理	アドレナリン作動薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
2	1/ 6	月	5	講義	岡本安	薬理	抗アドレナリン薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
3	1/ 6	月	6	講義	岡本安	薬理	コリン作動薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
4	1/ 7	火	1	講義	岡本安	薬理	抗コリン薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
5	1/ 7	火	2	講義	岡本安	薬理	神経筋接合部遮断薬（末梢性筋弛緩薬）	F-2-8)-4, F-2-8)-8
6	1/ 7	火	3	講義	岡本安	薬理	抗精神病薬（統合失調症治療薬）	F-2-8)-4, F-2-8)-8
7	1/ 8	水	4	講義	岡本安	薬理	抗うつ薬・気分安定薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
8	1/ 8	水	5	講義	岡本安	薬理	抗不安薬・睡眠薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
9	1/ 8	水	6	講義	岡本安	薬理	抗てんかん薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
10	1/ 9	木	1	講義	岡本安	薬理	パーキンソン病治療薬、抗認知症薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
11	1/ 9	木	2	講義	岡本安	薬理	麻薬性鎮痛薬	F-2-8)-4, F-2-8)-7
12	1/ 9	木	3	講義	岡本安	薬理	薬物依存	F-2-8)-1, F-2-8)-4 F-2-8)-7
13	1/10	金	4	講義	岡本安	薬理	局所麻酔薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
14	1/10	金	5	講義	岡本安	薬理	全身麻酔薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
15	1/10	金	6	講義	竹之内	薬理	高血圧治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
16	1/11	土	2	講義	竹之内	薬理	狭心症治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
17	1/11	土	3	講義	竹之内	薬理	利尿薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
18	1/14	火	1	講義	岡本安	薬理	抗不整脈薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
19	1/14	火	2	講義	岡本安	薬理	心不全治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8

20	1/14	火	3	講義	坪井	薬理	気管支拡張薬・気管支喘息治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
21	1/15	水	4	講義	坪井	薬理	鎮咳薬・去痰薬・呼吸機能改善薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
22	1/15	水	5	講義	岡本安	薬理	消化性潰瘍治療薬・制吐薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
23	1/15	水	6	講義	岡本安	薬理	消化管運動機能改善薬・腸疾患治療薬	F-2-8)-4
24	1/16	木	1	講義	坪井	薬理	非ステロイド性抗炎症薬	F-2-8)-4, F-2-8)-7 F-2-8)-8
25	1/16	木	2	講義	坪井	薬理	ステロイド薬、甲状腺疾患治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
26	1/16	木	3	講義	岡本安	薬理	泌尿器・生殖器用剤	F-2-8)-4, F-2-8)-8
27	1/17	金	4	講義	岡本安	薬理	女性ホルモン製剤・子宮用剤	F-2-8)-4, F-2-8)-8
28	1/17	金	5	講義	竹之内	薬理	糖尿病治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
29	1/17	金	6	講義	坪井	薬理	脂質異常症治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8 F-2-8)-12
30-31	1/20	月	1-2	中間試験	岡本安	薬理	中間試験	F-2-8)
32	1/20	月	3	講義	坪井	薬理	骨粗鬆症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8 F-2-8)-12
33	1/21	火	4	講義	坪井	薬理	免疫抑制薬、関節リウマチ治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8 F-2-8)-12
34	1/21	火	5	講義	坪井	薬理	抗アレルギー薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
35	1/21	火	6	講義	岡本安	薬理	止血薬、抗血栓薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
36	1/22	水	1	講義	岡本安	薬理	造血薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
37	1/22	水	2	講義	岡本安	薬理	抗菌薬総論	F-2-8)-5, F-2-8)-8
38	1/22	水	3	講義	二宮洋	非常勤/ 附属病院	薬物動態	C-3-3)-(2), F-2-8)-10
39~44	1/23	木	1~6	演習	岡本安・坪井 竹之内・北風	薬理	症例問題を用いて適正医薬品の選択法を体験学習する。演習内容をグループ討論し、演習成果をパワーポイントにより発表する。	F-2-8)
45	1/24	金	4	講義	岡本安	薬理	細胞壁合成を阻害する抗菌薬	F-2-8)-5, F-2-8)-8
46	1/24	金	5	講義	岡本安	薬理	タンパク質合成・核酸合成を阻害する抗菌薬、抗結核薬	F-2-8)-5, F-2-8)-8
47	1/24	金	6	講義	楠	総合臨床	漢方の歴史と基本理論	F-2-8), F-2-8)-8 F-2-8)-13
48	1/27	月	1	講義	岡本安	薬理	抗ウイルス薬、抗真菌薬	F-2-8)-5, F-2-8)-8
49	1/27	月	2	講義	岡本安	薬理	抗悪性腫瘍薬	F-2-8)-6, F-2-8)-8 F-2-8)-12
50	1/27	月	3	講義	岡本安	薬理	分子標的薬	F-2-8)-6, F-2-8)-8 F-2-8)-12
51	1/27	月	4	講義	岡本安	薬理	中毒治療薬	E-5-3)-(1)-3, E-5-3)-(1)-5 E-5-3)-(1)-6, F-2-8)
52	1/27	月	5	講義	楠	総合臨床	生薬と方剤	F-2-8), F-2-8)-8 F-2-8)-13
53	1/27	月	6	講義	楠	総合臨床	漢方医学の臨床	F-2-8), F-2-8)-8 F-2-8)-13

評価方法
<p>[期末試験]40% (40 点。範囲：授業 25-47)            [中間試験]45% (45 点。範囲：授業 1-24)            [プレゼンテーション]5% (5 点。演習の出席は必須。)            [出席状況 (受講態度)]10% (10 点。45 回の授業のうち 16 回以上欠席した場合、欠席オーバーとする。評点は 10 点 X (中間試験・演習を除く出席回数) /45 の式で算出する (ただし小数点以下は切り捨て)。            [評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価、プレゼンテーション評価、実習態度評価            [備考]中間試験と期末試験は必ず受験すること。中間試験を受験しなかった場合、その回の成績は 0 点となる。期末試験を受験しなかった場合、補充試験の受験資格を失う。</p>
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて
<p>記述式問題の答案については、採点后返却する。            演習：各プレゼンテーション毎に全体で質疑応答を行い、最後にプレゼンテーションの内容などについて担当教員がコメントする。</p>
教科書
<p>お持ちの薬理学関連図書で構わない。配布プリントあり。</p>
参考書
<p>(特になし)</p>
準備学習 (予習・復習等)
<p>予習：講義前に全体資料を確認し、関係する講義科目 (基礎医学) の復習を行い、該当する範囲の薬理学のテキストを読んでおく (30 分程)。            復習：過去の試験問題により各講義内容の理解度を適宜チェックし、不得意分野については自主的に追加学習する (30 分程)。</p>
講義についての注意事項
<p>配布プリントを中心に、PC スライドおよび板書によって進められる講義に出席し、その内容を理解する。講義の終了後、不明な点は教員に対して積極的に質問する。</p>
昨年度からの変更点・改善項目
<p>評価方法の評価基準を変更した。</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について
<p>本科目の直前に学修する生体と薬物履修後に学修する。3 年次以降に学修する臨床医学の基本になる。</p>
ナンバリング
<p>BAPC221</p>